

一年生にはここから教える

遠 足

歩け、

歩け、

元気に 歩け。

これが、石井学級の一年生が、入学していちばんはじめに学んだ文章です。もちろん、教科書には、

えんそく

あるけ、

あるけ、

げんきに あるけ。

となっています。そこで、この上にはり紙をしてかなをかくし、漢字に書き改めさせたのです。

漢字はかなよりもやさしい

「ひらがなも読めないうちに、こんなむずかしい漢字を教えるなんて、ずいぶんむちゃな話だ」

こんな声が、わたしの耳には聞こえてくるような気がします。

しかし、これは、むちゃでもらんぼうでもありません。漢字のほうが、かなよりもやさしいからなのです。「あるけ、あるけ」よりも、「歩け、歩け」のほうが、一年生の子どもには、覚えやすく、読みやすいのです。これは、わたしがそう思うというのではありません。一年生の子どもたちがそういっているのであり、だから、石井学級の一年生は、はじめから、ことばを漢字で学んでいるのです。

むかし、望遠鏡を発明したガリレオは、地球が太陽のまわりを回っていることを確かめ、地動説を主張しましたが、当時の人々は、だれもこれを信じようとはしませんでした。望遠鏡により、天体の運動を観察すれば、だれだって、地動説の正しいことがわかるでしょうが、当時は、地球が動くなどということは、夢にも考えられないことだったので、こんなことは確かめようとする人がありませんでした。だから、いったん、地動説は立ち消えとなってしまったのです。